和をもって
第28号
発行
成相山成相寺
京都府宮津市字成相寺339
TEL0772-27-0018
http://www.nariaiji.jp/

般若心経とは

今年は気のせいか一年のスピードが早すぎるような気がします。もう紅葉の季節です。毎日のコロナ罹患者の方の数字を眺めていると、随分少なくなって来ているのが見え、素直に喜びたいと思います。皆様方に於かれましてはいかがお過ごしでしょうか。お伺い申し上げます。

最近はご法事も行いにくいご時世ですが、ご法事やお盆にお坊さんがお家に来られ、お経を読まれることがあると思います。ご宗旨によって様々なお経がありますが、一番広く読まれているお経の一つに「般若心経」がございます。

我々僧侶が読誦するお経とは、全てがお釈迦様の教えでありますので、全てにちゃんと意味があります。なので、もちろん「般若心経」にも意味があり、現代語訳をすることが出来ます。

元々はインドの言葉で書かれたお経を、昔のお坊さん達が命をかけて中国へ持ち帰り、中国語でそれを翻訳し、さらに日本へ伝わってきたものが現在のお経であります。中国からインドまで徒歩でそのお経を求めて旅をしたわけですから、並大抵の覚悟ではなかったことでしょう。この事からも大変に有り難いものだと言えますね。

その有り難いお経にどのような意味で何が書かれているのか。それを少しでも知ることが出来れば、お経を読む際に仏様やご先祖様へのより良いご供養に繋がりますし、より仏様の教えを理解することが出来るのではないかと思います。

とはいえ二百六十二文字ある「般若心経」を全部訳していくと、読むのも書くのも時間がかかるので、今回は有名な一節のみ訳したいと思います。

「色即是空空即是色」というこの一節ですが、大変に興味深いものです。

「般若心経」を一文字で要約せよと言われたならば、答えは「空」となります。

「空」とは、実体がないということで、実体がないとはそれそのものとして存在がないということになります。

実体がないとはどういうことかといいますと、先日、私が冷蔵庫に入れておいたネットで注文した「行列の出来る拉麺屋のチャーシュー麺」がありました。食べようと思い取り出すと、肝心のチャーシューが入っておりません。「行列の出来る拉麺屋のチャーシュー麺」だと思っていた物は、「只のラーメン」になってしまい、これで元の実体が無くなりました。

ではチャーシューはどこへ行ったのかというと、三日前の私の胃袋の中でした。小腹が空いたので冷蔵庫をあさり、チャーシューのみを食し、それを失念していたのです。

そして、その胃袋のチャーシューはずっと胃袋にある訳ではなく、消化されてゆきます。これでチャーシューの実体はなくなりましたが、形を変えて肉や骨などに変化し身体を構成してゆきます。

つまり、実体がありそうだった「行列の出来る拉麺屋のチャーシュー麺」は、私の愚行と失念によりあらゆる場面で実体のない物になり、あらゆる物に形を変えて次に繋がってゆくのです。もちろんチャーシュー麺に限ったことではなく、この世のあらゆるものがそうであるといえます。実体がないからこそ形を変えていくのです。

次に「色」の説明をします。「色」とは、目に見える全ての物を指します。物質的な現象全てを「色」といいます。ではここで「色即是空空即是色」を日本語に訳してみましょう。

「目に見える現象の全ては、実体が無く、実体が無いからこそ目に見える現象なのである」となるわけですね。いまいちピンときませんね。

もっとかみくだいた解釈をすると、今認識している「自分」というものは、海の小さな白波のようなもので、表面に浮き出ではすぐに海の一部に戻り、どこに「自分」がいたかなんてわからなくなります。その海こそ「大日如来」であり「自分」ということです。皆が私で、私が皆ともいえます。

この海の水も、以前は川の水であり、その前は川の上流にある山に降る雨だったかもしれません。一度たりとも雨であり続けたことは無く、また海水であり続けることも無いのですね。

このように全ては姿形を変えて巡り巡ってゆく流動的なものです。もちろん「自分」もこの流動的なサイクルの中の一部でありますから、テレビの中のあの人も、嫌いなあの人もみんな同じということなんですね。人類皆兄弟とはよく言ったものだと思います。

だから、他人に優しくすれば自分に返ってきますし、嫌な言葉を投げかけるともちろん自分に返ってきます。なぜなら、他人は自分で自分は他人だからです。

かといって、「自我」というものを無くしてしまえばいいという訳では決してありません。自分へのこだわりを無くしましょうというのが、お釈迦様の教えなのです。自我が確立した上で初めて自分への執着を断つことを目指せるのです。

大分と脱線したように思えますが、これも「色即是空空即是色」の現代語訳から得られる教訓の一つになります。もちろんこの教訓も実体の無い「空」に違いありません。

まだまだ般若心経には大事なことが多く語られています。興味がありましたら是非お調べになってみてくださいませ。

南無観世音菩薩　合掌

副住職　龍眞拝

山内順礼

今回は五重塔をご紹介いたします。

成相寺は中世には諸堂宇、数十棟が建ち並ぶ大伽藍でしたが、度重なる災害（山崩れや兵火、落雷による火災）などで多くの堂宇が消失しました。

以後わずかに本堂、山門、鐘楼、熊野権現社等が復興されましたが、開山千三百年を迎えるにあたり、消失していた五重塔の復元が発願され、平成十七年に落慶法会を厳修し完成に至りました。

高さは三十三ｍ（百八尺）の総木造で鎌倉時代の建築様式を再現しております。

平成九年には、仏舎利埋納式が厳修され、スリランカよりお迎えした仏舎利を心柱の礎石に奉安いたしました。

心柱そのものを胎蔵界大日如来とし、南側正面には金剛界大日如来が描かれております。

扉には八方天（帝釈天、火天、閻魔天、羅刹天、水天、風天、毘沙門天、伊舎那天）が、壁板には真言八祖（龍猛菩薩、龍智菩薩、金剛智三蔵、不空三蔵、善無畏三蔵、一行阿闍梨、恵果阿闍梨、弘法大師）が描かれております。

普段は中を拝観することは出来ませんが、来年のゴールデンウィーク期間中にはご開帳を予定しておりますので是非おまいりください。